ふじミュー自然観察記

観察路のマダニ

高田　歩

ふじのくに地球環境史ミュージアムの自然観察路にて、11 月 6 日の整備作業時にこっそりとマダニを採集してきました。採集の方法は、我々ダニ屋にとってはおなじみの旗振り法（フランネルの白布を草や地面にすりつけて付いたマダニを摘出する方法）を用いました。1 時間ほど観察路を歩きながら採集しましたが、予想していたよりも多く採集できました。

今回採集されたマダニは、2 属 4 種 31 匹でした。その内訳は、タカサゴキララマダニの若虫 1 匹、キチマダニの幼虫 4 匹、若虫 14 匹、オス成虫 2 匹、メス成虫 1 匹、タカサゴチマダニの若虫 6 匹、フタトゲチマダニの幼虫 3 匹となりました。また、これとは別の機会に、平井剛夫さんが、ビーティング（草や木にいる昆虫を布の上にはたき落として採集する方法）をしていた際に、ヤマアラシチマダニのメス成虫を 1 匹得たようで、譲ってくださいました。これで、ここの自然観察路で見られるマダニは 5 種類いることがわかりました。

マダニが生息し続けるためには、吸血源となる宿主が必要となります。以前、有度丘陵で捕獲されたイノシシのマダニを調べる機会がありましたが、そのときに得られた種も同じ 5 種で、いずれのマダニも、もれなくイノシシのご厄介になっていることがわかります。ちなみに、個体にもよりますが、イノシシ 1 頭から 500 匹以上ものマダニが得られることもあります。

有度丘陵に生息し、マダニの吸血源となる動物として、イノシシの他に、ハクビシンやアライグマ、タヌキ、ネズミ類、モグラ類などの哺乳類だけでなく、鳥類や爬虫類も挙げられます。自然観察路は、山側をフェンスで囲っているので、我々人間は自由に行き来できないようになっています。しかし、動物たちはおかまいなしに、フェンスの隙間などから出入りしているのでしょう。そうして、彼らの体についているマダニを自然観察路にぽろぽろと落としていったのでしょう。

ところで自然観察路のマダニについて、皆さんがむやみに恐れる必要はないことを、書き添えさせていただきます。万が一刺されても、しばらくは体調の変化に気を配り、発熱などがあってから病院に行っても治療は遅くないので、今後も楽しく野外観察を続けていただければと思います。

自然観察路のマダニたち
拡大倍率は不揃いです。